

令和元年度 第2回学校訪問のまとめ

竹田教育事務所

【第2回学校訪問の目的等】

目的	『芯の通った学校組織』を基盤とした教育水準の向上を目指し、学校マネジメントの質向上と授業力の向上を中心に、学校が抱えている課題を探り、その解決のために必要な指導・支援を行う。
方法	学校訪問確認シートの課題を中心とした取組の短期検証改善の状況や、「新大分スタンダード」による授業改善について協議を行う。
期間	令和元年 10月16日(水)～12月 4日(水)

1 把握した状況

(1) 「学校マネジメント4つの観点」における事務所評価

観点	S評価	A評価	B評価	S評価の割合
観点Ⅰ 「取組指標等の設定」	29校	7校	0校	29/36校 (80.6%)
観点Ⅱ 「検証・改善サイクル」	20校	16校	0校	20/36校 (55.6%)
観点Ⅲ 「目標の連動」	32校	4校	0校	32/36校 (88.9%)
観点Ⅳ 「チーム学校」	34校	2校	0校	34/36校 (94.4%)

※S評価の第1回訪問時比較：観点Ⅰ（20⇒29）、観点Ⅱ（10⇒20）、観点Ⅲ（21⇒32）、観点Ⅳ（19⇒34）。全ての項目でS評価が増加した。年間2回の定期学校訪問だけでなく、ミドルリーダー訪問（平成27年より夏季休業中に実施）実施の効果が大きい。ミドルリーダー訪問を実施することにより、ミドルリーダーが学校評価の4点セットや学校マネジメント4つの観点について深く理解し学校運営への参画意識が増していると考えられる。それが学校全体として効果的な検証改善と成果につながっている。

(2) 学校マネジメントの深化

① 「学校マネジメント4つの観点」に基づく学校マネジメントの深化

観点Ⅱ：1学期末までの検証・改善の回数（最大の回数）

学期に1回	10校	学期に2回	19校	学期に3回	4校	学期に4回	3校
-------	-----	-------	-----	-------	----	-------	----

※学期に1回のみ为学校については、分掌会議等で1学期に数回、取組状況の確認は実施していることを確認した。また全体として月に1回以上、取組指標等の実施状況の確認をすることを指導した。

観点Ⅲ：主要主任は、他の教職員の目標達成や授業改善に向けてのアドバイス（日常の指導）

他の教職員の目標達成や授業改善に向けてアドバイスの実施	36/36校 (100%)
-----------------------------	---------------

② 「地域とともにある学校」への転換促進

家庭や地域と学校の重点目標を共有	36/36校 (100%)
地域の人材を活用した取組（授業や学校行事等）が実施	36/36校 (100%)

※重点目標の共有や地域人材を活用した授業や活動（行事）は全ての学校で実施されている。しかし、目標の共有や取組内容等の設定において、熟議の上で決定、承認されたものは少ない。また取組内容によって、地域の取組が設定されていない項目も見られ、来年度の第3ステージの取組に向けた課題である。

③ マネジメントツールを活用した教育課程レベルでの校種間連携の推進

(小学校)

小学校から近隣幼稚園等に4点セットを提示	14/23校 (68.7%)
小学校と近隣幼稚園等で4点セットを共有	7/23校 (30.4%)
小学校から中学校に4点セットを提示	12/23校 (52.2%)
小学校と中学校で4点セットを共有	18/23校 (78.3%)
スタートカリキュラムを近隣の公立幼稚園に提示（共有）	12/23校 (52.2%)
スタートカリキュラムを近隣の私立幼稚園等に提示（共有）	7/23校 (30.4%)
保幼小連携の取組	21/23校 (91.3%)
小小連携の取組	18/23校 (78.3%)
小中連携の取組	23/23校 (100%)

※幼稚園⇔小学校における4点セットの提示・共有については、特に私立幼稚園や保育園、子ども園との共有が困難である。また公立幼稚園長＝小学校長がほとんどであるが、提示できても共有までに至っていないとする学校が多い。スタートカリキュラムの共有についても同様の課題がある。

※小小連携の取組では、竹田ではT授業の取組で、全ての学校で取り組まれている。豊後大野市では、小中連携の取組の一環として、三重中学校区で学習発表会等を実施した。

(中学校)

中学校から小学校に4点セットを提示、共有	12/13校 (92.3%)
中1ギャップに対応したカリキュラム等を作成し、実施	9/13校 (75.0%)
小中連携の取組	13/13校 (100%)

(3) 授業改善の徹底

① 授業改善の取組を活かしたカリキュラム・マネジメントの推進

1学期の取組や調査結果を基に学力向上プランの検証・改善を実施	36/36校 (100%)
1学期の取組等を基に、教科横断的な単元配列表の検証・改善を実施	28/36校 (77.8%)

② 特別支援教育の視点からの授業改善（「個別の指導計画」作成率向上の取組）

通常学級における「個別の指導計画」の作成（全ての児童・生徒）	33/36校 (91.7%)
--------------------------------	----------------

※通常学級における「個別の指導計画」の作成については、第1回訪問時未作成児童生徒がいる学校数14校から3校に減り、作成が進んでいる。未作成3校についても、夏季休業中の会議等で作成が必要と判断された新規児童生徒分で、現在作成中である。

③ 「中学校学力向上対策3つの提言」の着実な推進（中学校のみ）

教科（授業者）毎に「生徒による授業評価」を実施し授業改善に反映	13/13校 (100%)
授業像を生徒と共有、学習集団の目標設定、ふり回り活動の実施	13/13校 (100%)

※「中学校学力向上対策3つの提言」の取組については、管内全ての中学校で授業評価をする体制ができており、その結果を職員会議等で分析・共有し、授業改善に生かすことができているが、評価項目の質や授業改善が教科毎の対応に任せられているなどの取組に差が見られた。多くの学校に、授業改善に生かす項目の設定や自由記述の活用（教育相談等）について指導した。

※授業像を生徒と共有した取組等についても、全ての学校で学習目標設定等、生徒会等を活用した取組が進められているが、まだまだ学習規律や学習ルールの共有にとどまっている学校があるなど、取組の質に差が見られた。学校の教育目標や各教科の目指す授業像を提示することを指導した。

(4) 体力向上の推進と健康課題への対応

① 運動の習慣化・日常化に向けた組織的取組の推進

体力調査等の結果を受けて、体力向上プランの検証・改善を実施	35/36校 (97.2%)
体力調査等の結果を受けて、「一校一実践」の見直し・改善等を実施	34/36校 (94.4%)
課題のある項目を中心とした体カテストの項目を2回以上実施	30/36校 (83.3%)

※体力向上プラン及び「一校一実践」については、大幅な見直し、改善は少ないが、ほとんどの学校で、体力調査等の結果を受けて、課題に即した見直し・改善が実施されている。

(5) いじめ・不登校対策等の推進

児童生徒支援対策プランの検証・改善を実施	35/36校 (97.2%)
教育相談コーディネーターを中心とした組織的な取組（体制）の確立	35/36校 (97.2%)
SC、SSW等の校内委員会への参加や研修での活用を実施（予定）	28/36校 (77.8%)

※いじめの認知について、認知数が0の学級や児童生徒数と比較して認知数が少ない学校には、月1回以上のアンケート実施や生活ノート、日頃の観察による丁寧な見取りをするように指導した。